

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和5年 6月 26日

（提出先）

川越市長 殿

提出者

住 所 川越市的場1620

氏 名 本田金属技術株式会社

代表取締役社長 小島 晃

電話番号 049-231-1521

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	本田金属技術株式会社
事業場の所在地	埼玉県川越市的場1620
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	輸送用機械器具製造業
② 事業の規模	資本金 12億6000万円
③ 従業員数	644人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	アルミ原料として、車の部品であるシリンダーヘッド、ピストン等の鋳造を製造。一部加工を行っている。別紙①のとおり

（日本工業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)
環境マネジメントシステム
ISO14001の弊社規定による
環境管理組織
別紙②のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙③のとおり		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙③のとおり		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙③のとおり
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙③のとおり

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙④のとおり		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙④のとおり		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
(これまでに実施した取組) —			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
(今後実施する予定の取組) —			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) —		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙⑤のとおり		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙⑥のとおり		
※事務処理欄			

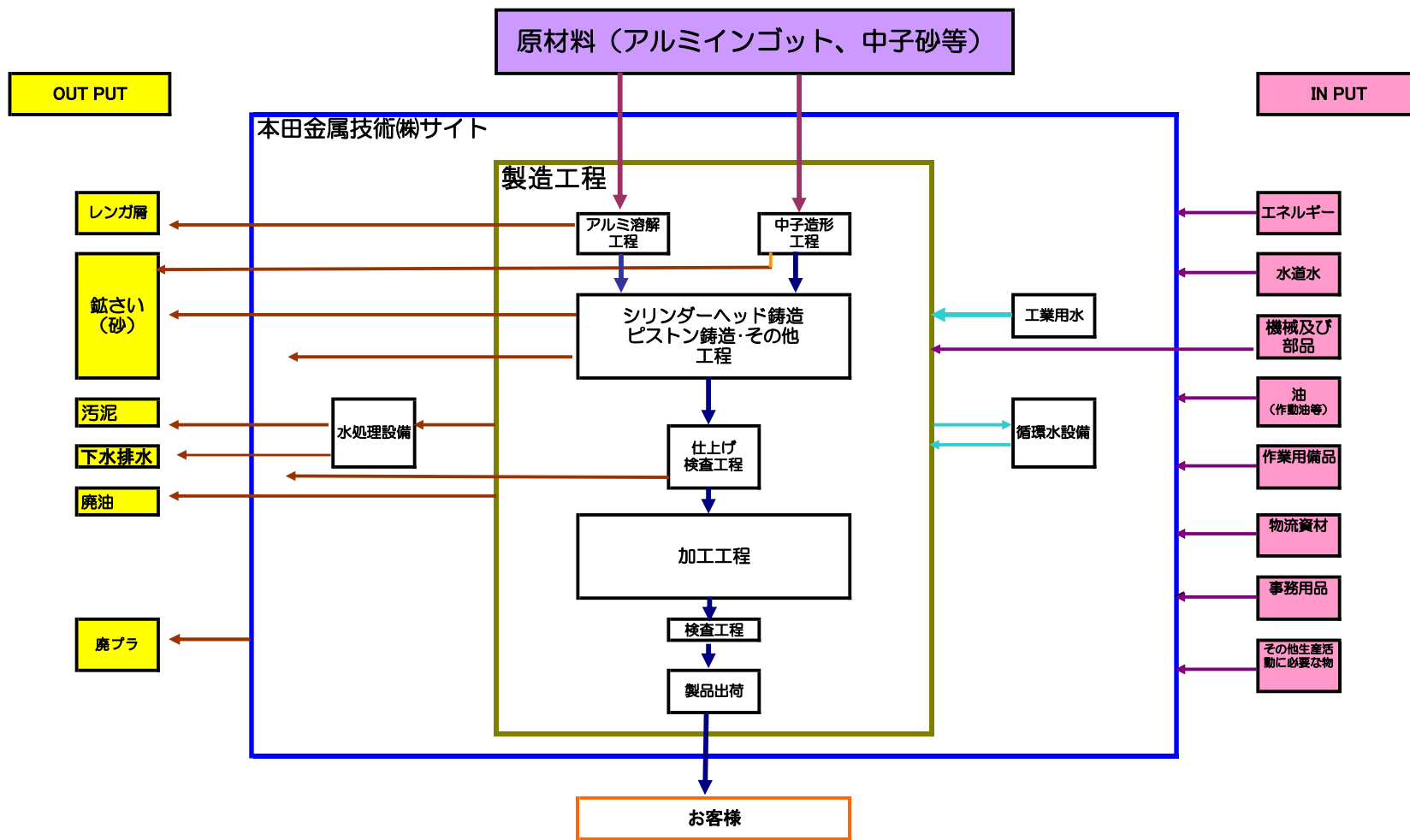
(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙①

製造フロー及び排出される廃棄物



別紙②

本田金属技術株式会社

環境管理体制図

代表取締役社長

環境管理責任者

	(エネルギー管理統括者) 取締役
--	---------------------

委員長	環境安全BL	
承認	確認	作成
原紙承認済		

(改定) 2023年 4月 1日

*委員会発令、推進員変更による

環境管理委員

委員長	本社・川越事務局
1 (管理部 部長)	2

部・室・工場	委員
品質保証部	3 (品質保証部 部長)
購買部 グローバル企画部 営業部	4 (グローバル企画部 部長)
管理部	5 (管理部 環境安全B/L)
工機部 川越生産技術部	6 (川越生産技術 部長)
川越工場	7 (川越工場 製造2B/L)
川越地区実務管理	8 (川越工場 施設・保全B/L)

環境推進員

部・室・工場	ブロック	グループ	推進員	実施計画
品質保証部	品質保証BL 川越品質技術BL	品質保証Gr 川越品質技術Gr	1	001
購買部	購買BL	—	2	002
グローバル企画部 営業部	海外業務BL 企画推進BL、営業BL	—	3	003
管理部	経理BL、ITBL	—	4	004
	総務BL、 人事BL、環境安全BL	環境安全Gr	5	005
工機部	金型製作BL	製作Gr	6	006
	試作BL	—	7	007
川越生産技術部	RD.C	—	8	008
	川越生産技術BL	素材技術Gr 加工技術Gr	9	009
	製品開発BL	製品設計Gr 金型設計Gr、解析技術Gr	10	010
川越工場	製造1BL	ピストン1Gr、2Gr	11	011
	製造2BL	ヘッド1Gr、2Gr、3Gr	12	012
	施設・保全BL	施設Gr	13	013
		保全Gr	14	014
	工務・生販BL	工務Gr 生販推進Gr	15	015

別紙③

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	[前年度（令和4年度）実績]								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	鋳さい	木くず	レンガくず	乾電池	蛍光管
	排 出 量	163 t	111 t	10 t	1,332 t	4 t	14 t	0.1 t	0.2 t
	(これまで実施した取組)								
	廃油のリサイクル(有価) 製品の不良率削減								
②計画	[目標]								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	鋳さい	木くず	レンガくず	乾電池	蛍光管
	排 出 量	155 t	105 t	10 t	1,265 t	4 t	13 t	0.1 t	0.1 t
	(今後実施する予定の取組)								
	廃油のリサイクル(有価) 製品の不良率削減								
産業廃棄物の分別に関する事項									
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 環境ポケットマニュアルによりゴミの分別を周知。 新入社員教育 廃棄物の廃棄方法教育								
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) —								

別紙④

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

[前年度（令和4年度）実績]								
産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	鋳さい	木くず	レンガくず	乾電池	蛍光管
①現状	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(これまで実施した取組)								
—								
[目標]								
産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	鋳さい	木くず	レンガくず	乾電池	蛍光管
②計画	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組)								
—								

別紙⑤

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	[前年度（令和4年度）実績]								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	鋳さい	木くず	レンガくず	乾電池	蛍光管
	全処理委託量	163 t	111 t	10 t	1,332 t	4 t	14 t	0.1 t	0.2 t
	優良認定処理業者への処理委託量	155 t	111 t	10 t	0 t	4 t	14 t	0 t	0.2 t
	再生利用業者への処理委託量	163 t	111 t	10 t	1,332 t	4 t	14 t	0.1 t	0.2 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまで実施した取組) 優良認定処理業者への排出。								

別紙⑥

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

②計画	[目標]								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	鋳さい	木くず	レンガくず	乾電池	蛍光管
	全処理委託量	155 t	105 t	10 t	1,265 t	4 t	13 t	0.1 t	0.1 t
	優良認定処理業者への処理委託量	147 t	105 t	10 t	0 t	4 t	13 t	0 t	0.1 t
	再生利用業者への処理委託量	155 t	105 t	10 t	1,265 t	4 t	13 t	0.1 t	0.1 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまで実施した取組) 優良認定処理業者への排出。								

工場レイアウト図

